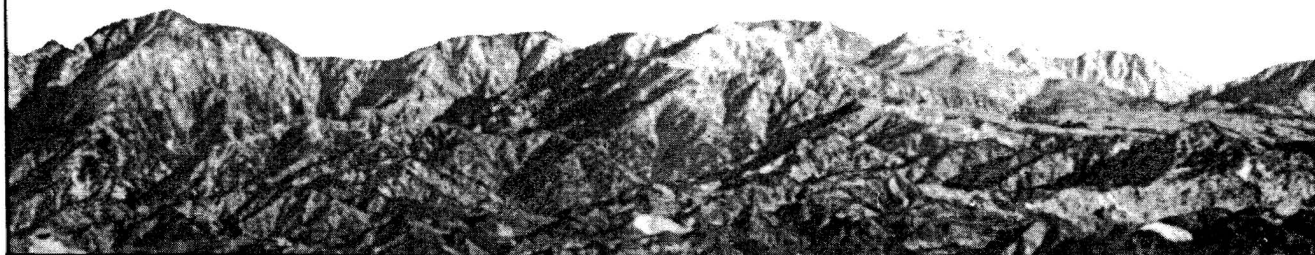


# 富山大学 学報



(題字 大井信一 学長)

## 第293号

### 目 次

学 長 告 辞..... 2	・ 新任局長紹介..... 17
昭和62年度富山大学卒業証書, 修了証書並びに	・ 経営短期大学部閉学式及び同閉学パーティの
修士学位記授与式 学長告辞..... 2	開催..... 17
関 係 法 令..... 3	・ 学位取得者..... 17
学 内 規 則..... 5	・ 叙 位..... 18
富山大学構内交通対策委員会規則の一部改正に	退職(予定)者を囲む懇談会..... 18
ついて..... 5	海外渡航者..... 19
諸 会 議..... 5	寄 稿 <南インド洋・南極海での国際海洋底掘
学 事..... 6	削計画に参加して> ..... 19
昭和63年度富山大学入学者選抜について..... 6	職 員 消 息..... 21
昭和62年度富山大学卒業証書, 修了証書並びに	主 要 行 事..... 24
修士学位記授与式の挙行..... 7	資 料..... 27
人 事 異 動..... 10	昭和62年度卒業(修了)者数..... 27
学 内 諸 報..... 17	昭和63年度授業日程表..... 28

---

## 学 長 告 辞

---

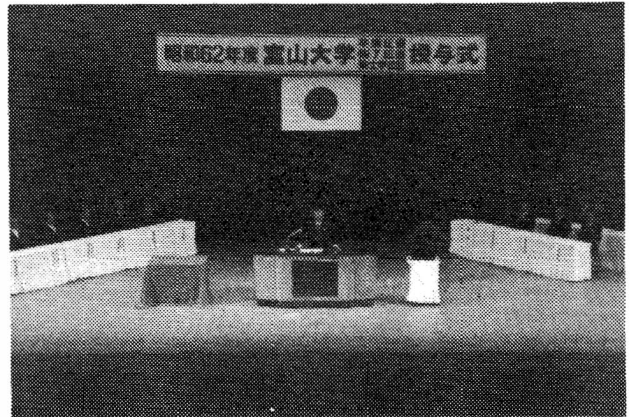
### 昭和62年度卒業式学長告辞

ただいま、卒業証書、修了証書あるいは修士学位記を授与されました1,251名にのぼる諸君は、富山大学における所定の課程を終え、本日ここにめでたく卒業の日を迎えられた方々でありまして、教職員一同心から祝福を申し上げます。諸君の喜びもさることながら諸君を今日迄育てられた御家族の方々のお喜びはさぞかしと推察致します。

諸君のうち、ほとんどの人が卒業と同時に社会人としての第一歩を踏み出すこととなります。ますます高度化する社会や拡大変貌しつつある産業、経済活動に対処していく社会人または職業人として今後一層の研鑽が必要であります。新たな目標と不退転の決意を持って、実社会へと出発して下さい。

さて、今世紀もあと13年を残すだけとなりました。21世紀を迎えるに当たり、諸君の当面する課題は何でしょうか。今世紀の最大の特徴は、何といたっても驚くべき科学技術の発達でありましょう。なかでも、特筆すべきは、核エネルギーの発見とロケットによる宇宙への進出であります。核エネルギーの発見は、火の利用、火薬の発明に次ぐ画期的な出来事で人類に化石燃料に代る新しい展望をもたらしました。さらにロケットの発明により人間が宇宙へ進出した事は、コロンブスのアメリカ発見をしのぐ歴史的な大事件であり、我々は広い宇宙から、はじめて地球と言う惑星を見つめることが出来、これまでの地球観が大きく変わりました。即ち、地球は逃げ場のない限られた住み家であり、そこに住む全人類が運命共同体であるという事をはっきり認識したことであります。この地球観に立てば、地球の保全是人類の今後の最優先の課題であり、超大国の宇宙を舞台にした核軍備競争などに象徴される危険性を考えると、この巨大科学技術への人類の対応如何が21世紀における最大の関心事となりましょう。

ひるがえって、我国は明治以来の科学技術の振興により、重厚長大型産業を軸に「欧米に追いつき追い越せ」を目標に躍進した時代から、多様な価値観が求められる軽薄短小型産業の時代へ変化しつつあります。



さらに来るべき世紀においては、がん制圧や生命科学の研究、地震予知などの防災技術、核廃棄物の処理あるいは通信・情報技術など総じて、健康、生命および安全などの課題、一言で言えば、人間の幸福につながる研究を重視する方向が予測されていますが、これらの科学技術の開発の過程において、我国の国際的な貢献が強く期待されています。我国は、国家総生産規模では既に世界の15%を占める程、経済的には国際的地位が高まっているにもかかわらず、貿易摩擦などに見られるように、我国の対応のしかたは、受動的かつ事後処理的で、自国中心のため、諸外国の批判が高まっています。これらの対日批判は、我国社会の在り方を絶えず反省し、世界の中の日本と言う立場から、我国が地球規模の視点に立って積極的に国際的貢献をすることを強く求めています。例えば、現在地球は、森林破壊、二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊や化学物質による汚染などの環境破壊に直面しています。これらの危機回避に我国の技術的協力が強く要請されています。

次に注目すべき傾向は、我国労働人口の国際化と、女性の職業進出とその高齢化社会における役割であります。これからの経済交流は一層自由化が進み、物、サービス、資本から人即ち労働力にもおよんでいきます。外国人雇用の問題も近視眼的な発想による全面拒否ではすまされず、秩序立った導入のルール作りを真剣に検討しなければなりません。現に、我国においても、

生産性の低い労働条件のきびしい分野において、外国人労働力を求める現実の需要がありますし、他方アジア諸国の側には、世界一の高賃金国となった我国に労働力を輸出し、貴重な外貨を稼ぎたいと考えている国も少なくありません。労働力の国際化が21世紀に向けて急激に進展する中で、民族性や文化あるいは生活様式などの違いによる労働観や価値観の違いに基づく、さまざまな摩擦や対立が増幅されてくる心配があります。そこでは異なる文化を尊重する襟度が必要であります。即ち、対等な立場に立ち互いの相違を直視すると同時に、その思想や背景を精いっぱい理解しようとする姿勢が大切であると思えます。

次に女性の職業進出についてであります。戦後40年余、日本の社会は急激な変化を経験し、特に女性の生き方は大きな影響を受けたと思えます。家事・育児に専念せざるをえなかった時代から、多様な社会参加が期待される選択の時代へ移ったと考えられます。女性の職業進出は、経済のソフト化の一要因となっているように、男女雇用機会均等法の施行と相まって、社会の各分野への女性の進出は今後ますます増大すると思われれます。ところで、21世紀に向けて我国は急速に高齢化社会を迎えようとしています。我国の65才以上の高齢者人口は現在1,331万人で総人口の10.9%に達し、昭和25年頃の約倍になりました。第1次ベビーブームの世代（昭和22～24年生れ）が65才以上になる2020年には23.6%に達すると見られています。15才から64才までの生産年齢人口100人に対する高齢者人口の割合（老年人口指数）は、現在15.8で、6.3人で高齢者1

人を養っていることになり、これが2000年には4人で1人、2020年には、2.5人で1人を養うことになると言われてしています。高齢化社会における若年層の絶対数が減少することが最大の弱点であります。我国産業界の生産活動において、技術が多少優れていても研究開発能力が減少することは問題であります。ロボットで出来るところは大いにロボットを導入し、オートメーションで生産性をあげるにしても、創造性がそれだけ減ることは致命的であります。そこで来るべき21世紀においては、我国で眠っている女性の頭脳をフルに活用しなければなりません。今世紀末には工科系大学出身の女性が10%に達すると予測されていますが、理工科系出身に限らず21世紀においては、女性があらゆる分野で重要な役割を果たすべきだと考えます。女性の皆さんの活躍を期待します。

最後になりましたが、最近では学問や文化が余りに専門化し、細分化したために、大きな文明論の欠如、或いは歴史観や世界観に裏付けられた総合的視野の貧困を招いているのではないのでしょうか。来るべき時代は、人類文明の在り方や人間の生き方を問いなおし、多様な文化の一層の開花と新しい倫理の確立による人間性の回復を強く求めていかななくてはなりません。これらの課題の解決は諸君の双肩にかかっています。21世紀における諸君の創造的な活動に期待します。

どうぞ、くれぐれも健康に留意され頑張って下さい。これをもって、卒業生諸君へのはなむけの言葉と致します。

## 関係法令

### 政 令

- 住宅金融公庫法施行令等の一部を改正する政令（29） 3・1  
（注）住宅金融公庫の貸付金の利率を引き下げることとした。
- 勤労者財産形成促進法施行令の一部を改正する政令（30） 3・1  
（注）勤労者財産形成持家融資の利率に関する暫定措置による特例的貸付金利を、年4.6パーセントから年4.5パーセントに引き下げること

とした。

- 職員の兼業の許可に関する政令の一部を改正する政令（33） 3・18  
（注）国公法第104条の規定による職員の兼業許可に関する委任事項のうち研究職俸給表の5級又は医療職俸給表(一)の3級若しくは4級である職員を加えることとした。
- 日本育英会法施行令の一部を改正する政令（53） 3・25  
（注）第2種学資金の増額貸与に係る貸与利率を

	5.8%に改めることとした。	- 0 - 11)	3・15
○	国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(55)	3・29	
	(注)宮城教育大学及び鹿屋体育大学に大学院を置くとともに、これらに置く研究科の名称及び課程を定めることとした。		
<b>府 令</b>			
○	職員の兼業の許可に関する総理府令の一部を改正する総理府令(総理6)	3・18	
<b>省 令</b>			
○	外国郵便規則の一部を改正する省令(郵政9)	3・15	
○	児童手当法施行規則の一部を改正する省令(厚生8)	3・18	
○	住居手当の支給に関する規則の一部を改正する省令(外務3)	3・31	
○	学校教育法施行規則の一部を改正する省令(文部5)	3・31	
○	国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部7)	3・31	
○	国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令(文部8)	3・31	
○	国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令(文部9)	3・31	
<b>規 則</b>			
○	人事院規則11-8(職員の定年)の一部を改正する人事院規則(人事院11-8-3)	3・1	
○	人事院規則15-12(非常勤職員の勤務時間及び休暇)の一部を改正する人事院規則(人事院15-12-2)	3・15	
○	人事院規則17-0(管理職員等の範囲)の一部を改正する人事院規則(人事院17-0-11)		3・15
○	人事院規則8-13-1(人事院規則8-13(行政職俸給表(-)8等級の官職等への任用候補者名簿による職員の任用に関する特例等)の一部を改正する人事院規則(人事院8-13-3)		3・25
○	人事院規則8-18-1(人事院規則8-18(採用試験)の全部を改正する人事院規則)の一部を改正する人事院規則(人事院8-18-4)		3・25
○	人事院規則8-19(一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律(昭和60年法律第97号)の施行に伴う採用候補者名簿についての経過措置)の一部を改正する人事院規則(人事院8-19-1)		3・25
○	人事院規則9-8(初任給,昇格,昇給等の基準)の一部を改正する人事院規則(人事院9-8-8)		3・25
○	人事院規則16-0(職員の災害補償)の一部を改正する人事院規則(人事院16-0-6)		3・31
<b>告 示</b>			
○	昭和63年度大学入学資格検定の施行期日等を告示(文部32)		3・28
○	大学,短期大学,大学の学部,短期大学の学科,大学の学部の学科及び高等専門学校の学科の設置を認可した件(文部35)		3・30
○	大学院及び大学院の研究科の設置を認可した件(文部36)		3・30
○	短期大学,短期大学の学科,大学の学部の学科及び大学院の研究科の廃止を認可した件(文部37)		3・30
<b>官庁報告</b>			
	国家試験		
	昭和63年度国家公務員採用試験施行計画(人事院)		3・28

学 内 規 則

富山大学構内交通対策委員会規則の一部改正

富山大学構内交通対策委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和63年3月31日

富山大学長 大 井 信 一

富山大学構内交通対策委員会規則の一部を改正する規則

富山大学構内交通対策委員会規則（昭和51年12月17日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項中第2号を削り、第3号を第2号とし、第4号から第6号までを1号ずつ繰り上げる。

第3条第2項中「及び第2号」及び「（経営短期大学部にあつては主事）」を削る。

第3条第3項中「及び第2号」を削る。

附 則

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

▶富山大学構内交通対策委員会規則の改正理由  
富山大学経営短期大学部に、正規の修業年限内の学生が在学しなくなったことに伴い、所要事項を改める。

諸 会 議

昭和62年度第6回附属図書館商議会（3月4日）

定について

（審議事項）

- (1) 図書購入費について
- (2) 図書館利用内規（案）について
- (3) 学外者利用内規（案）について

第13回評議会（3月17日）

（審議事項）

- (1) 昭和63年度富山大学入学者選抜試験合格者の判定について
- (2) 昭和63年3月卒業生及び修了者の認定について
- (3) 富山大学学則の一部改正について

構内交通対策委員会（3月15日）

（議 題）

- (1) 五福構内の交通規制についての答申（案）について
- (2) 委員長の選出について

第10回事務協議会（3月22日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について

第6回大学院委員会（3月17日）

（審議事項）

- (1) 昭和63年3月富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）修了者の認

第5回会計係長会議（3月24日）

（議 題）

- (1) 昭和62年度学内会計監査の結果について

学 事

昭和63年度富山大学入学者選抜について

—実施状況—

昭和63年度富山大学第2次入学試験は、去る3月5日（土）6日（日）両日にわたり実施されました。

志願者は8,254名（理学部物理学科第2次募集を除く）で、県内高等学校等出身者2,500名（男子1,487名、女子1,013名）で全体の30%、現役は5,787名（男子4,096名、女子1,691名）で全体の70%でした。

合格発表は、3月18日（金）午前9時本学で行われ、合格者1,864名（理学部物理学科第2次募集を除く）の内訳をみると県内高等学校出身者742名（男子372名、女子370名）で全体の40%であり昨年の45%を下

回りました。

また、理学部物理学科において定員一部留保第2次募集（入学定員12名を留保）が実施され、合格者の発表は、3月30日（水）午後4時本学で行われました。

- （注）1 人文学部、経済学部、理学部の（ ）内は、推薦入学及び社会人・帰国子女特別選抜の志願者・受験者・合格者の内数を示す。  
 2 理学部物理学科の〔 〕内は、定員一部留保第2次募集入学志願者・受験者・合格者の内数を示す。

—選 抜 状 況—

学部	学 科 (課 程)	募集人員	志願者数	受験者数	欠席者(一部欠を含む)	合格者数	
人 文	人 文 学 科	95	347 (1)	324 (1)	23	109	
	語 学 文 学 科	95	323 (3)	303 (3)	20 (0)	141 (1)	
	計	190	670 (4)	627 (4)	43 (0)	250 (1)	
教 育	小学校教員養成課程	100	401	392	9	198	
	中学校教員養成課程	50	361	337	24	116	
	養護学校教員養成課程	20	138	130	8	24	
	幼稚園教員養成課程	30	167	157	10	31	
	情報教育課程	40	153	147	6	50	
	計	240	1,220	1,163	57	419	
経 済	昼間主 コース	経 済 学 科	144	989 (15)	901 (15)	88 (0)	170 (10)
		経 営 学 科	124	930 (17)	846 (16)	84 (1)	146 (8)
		経 営 法 学 科	102	1,009 (5)	927 (5)	82 (0)	121 (2)
	夜間主 コース	計	370	2,928 (37)	2,674 (36)	254 (1)	437 (20)
		経 済 学 科	20	85 (19)	85 (19)	0 (0)	25 (16)
		経 営 学 科	20	69 (12)	69 (12)	0 (0)	33 (9)
		経 営 法 学 科	20	74 (11)	74 (11)	0 (0)	30 (11)
計	60	228 (42)	228 (42)	0 (0)	88 (36)		
理	数 学 学 科	43	175	163	12	70	
	物 理 学 科	47	216 [86]	212 [86]	4	59 [17]	
	化 学 学 科	43	144	133	11	50	
	生 物 学 科	35	205 (1)	197 (1)	8 (0)	42 (1)	
	地 球 科 学 科	32	151	149	2	43	
	計	200	891 (1)	854 (1)	37 (0)	264 (1)	
工	電 気 工 学 科	56	282	261	21	71	
	工 業 化 学 科	50	276	242	34	60	
	金 属 工 学 科	43	359	314	45	51	
	機 械 工 学 科	56	302	275	27	71	
	生 産 機 械 工 学 科	45	458	418	40	58	
	化 学 工 学 科	46	513	466	47	52	
	電 子 工 学 科	46	213	199	14	60	
計	342	2,403	2,175	228	423		
合 計		1,402	8,340 (84)	7,721 (83)	619 (1)	1,881 (58)	

### 昭和62年度富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式の挙行

昭和62年度富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式が、3月25日(金)午前10時30分から富山市公会堂において挙行された。証書授与に先立ち、本学フィルハーモニー管弦楽団による演奏が行われた後、学部、専攻科、大学院研究科及び短期大学の卒業生、修了生、合計 1,251名に証書が授与されました。

また、大井学長から、21世紀を迎えるに当たり当面する国際化に積極的に貢献するとともに、来るべき時代の新しい倫理の確立と人間性の回復を求めて創造的な活動をするよう期待するとの、はなむけの言葉が述べられた。

当日はあいにくの曇天であったが、式終了後の公会堂前では各クラブの後輩たちによる胴上げ、記念撮影などが見られ、引き続き、各学部ごとの卒業記念祝賀会がそれぞれの会場で行われました。

また、正午から富山第一ホテルにおいて式に列席さ

れた名誉教授との懇談会が開催され、本学の状況や名誉教授の近況などについて和やかな懇談が行われました。

なお、修士学位記を授与された者の論文題目等は次のとおり。

(庶務係)



### 昭和62年度 富山大学大学院理学研究科(修士課程) 修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題目
数 学 (3名)	昭和61年度	菊池万里	Some ratio inequalities for continuous martingales
	"	財前宏	Partial sums of the harmonic series
	"	藤田均	Sasakian $\phi$ -Symmetric spaces and a construction of their examples
物理学 (7名)	"	江尻正一	膨張宇宙での非一様性の成長と宇宙定数
	"	笠井希一郎	4 d 遷移金属水素化物及び稀土類金属酸化物の超伝導性の研究
	"	竹田英樹	高濃度近藤物質及び高温超伝導体の熱的電氣的性質の研究
	"	蜷川繁	閾値におけるアノマリー構造 一位相不変量に対する固有値問題からのアプローチ
	"	橋波伸治	広い掃引幅を持ったレーザーシュタルク分光
	"	山本雅和	マイクロ波スペクトルによるメチルメルカプタン (CD <sub>3</sub> SH) 分子の研究
	昭和58年度	松井宏純	シリコン結晶の酸素析出現象の赤外吸収法による研究
化 学 (5名)	昭和61年度	稲葉孝文	水-メンブランフィルター間におけるイオン会合体の分配に関する研究
	"	桐敷賢	複合系酸化物触媒の格子酸素の拡散と酸化活性機構
	"	杉岡佳彦	ジヒドロフラン誘導体の合成および反応について
	"	土井孝夫	メタン酸化カップリング反応触媒の探索と活性発現機構

	昭和61年度	加藤良雄	気孔開閉の機構に関する研究
	"	西村裕幸	赤外線吸収スペクトルによる $[\text{Co(en)}_3] \text{Cl}_3 \cdot 3\text{T}_2\text{O}$ の $\beta$ 放射線分解の研究
生物学 (6名)	"	水谷文彦	硬骨魚類におけるカルシトニンの作用
	"	宮本鉄雄	ホヤの血球細胞から抽出したバナジウム結合物質に関する研究
	"	村瀬誠	ヒトテ類の皺胞胚の研究
	"	平田純子	細胞分離法を用いたホヤ血球細胞のバナジウム濃縮機構に関する研究
	"	南村有輝子	副甲状腺による有尾両生類のCa代謝調節
地球 科学 (4名)	"	石川郁男	復氷の研究
	"	塚田秀一	氷と固体の界面におけるトリチウムの拡散
	"	平田賢治	深発地震の多重震源解析
	"	水林修	温泉ガスおよび土壌ガス成分の地球化学

## 昭和62年度富山大学大学院工学研究科(修士課程)修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題名
電気工 学専攻 (8名)	昭和61年度	大川智之	雄雌コオロギの神経構造の差異について
	"	河部秀記	非定常有限振幅音波伝搬の数値シミュレーション
	"	小堀智生	閉領域電磁界の有限要素解析
	"	酒井成夫	Krämer型トレッド・ミルに関する研究
	"	瀬谷啓一	心電波形のエキスパートシステムの診断の試み
	"	佃康郎	植物細胞の電界効果と電界融合
	"	東政信	神経回路網の同定に関する研究
	"	魯軍偉	A numerical analysis of transient wave responses in plasma and transformer windings
工業化 学専攻 (9名)	"	滋野一弥	N-未置換のスルフィルイミンのMichael型付加反応機構
	"	新堂誠	(N-アリアルエチレンスルホン) -ウレタン, 尿素及びその他のアリアルエチレンスルホンアミド誘導体の合成
	"	武田英也	シクロヘプタ[a]フェナレン-6, 10-ジオンの合成と性質
	"	竹村勝也	N-ベンゾイルアリアルエチレンスルホンアミドの合成とその反応及び新規1, 4, 2-ジチアジン誘導体の合成
	"	寺前正浩	モノ置換アゾおよびアゾキシベンゼン類の合成と反応について
"	中野辰彦	Metal-RX系下に於ける石炭の可溶化 -可溶化成分の構造特性-	



工業化学専攻	"	西川 剛 司	触媒添着活性炭による環境中有害成分除去の研究 - 硫化メチル並びに亜酸化窒素の除去 -
	昭和61年度	野上 英 明	環境中でのトリチウムガスの転換 - 紫外線照射によるトリチウム水の生成反応 -
	"	本山 厚 司	Studies on the Mechanism for Pyrolytic Elimination of Trivalent Sulfur Compounds
金属工学専攻 (10名)	"	朝見 浩 治	Fe-Cr, Fe-Si合金における高温水蒸気酸化
	"	荒井 敦 志	マンガン団塊の湿式処理に関する基礎的研究
	"	浦野 寛 幸	時効硬化型アルミニウム合金のセレーションについて
	"	才川 清 二	SEM-ECP法を用いた羽毛状晶の面方位決定による成長機構の検討
	"	高橋 勇 治	チタン, チタン合金のdepassivation pH
	"	谷畑 弘 之	極低炭素冷延鋼板の再結晶集合組織に及ぼす銅の影響
	"	橋本 行 史	Al-Mg合金鋳塊における羽毛状晶の増殖機構
	"	長谷川 昌 弘	資源リサイクリングに関する研究
	"	松田 健 二	Al-Mg-Si合金における粒界破断機構
	"	楊 鴻 鈞	鉄鋼表面におけるクロム拡散被覆層の形成
機械工学専攻 (2名)	"	白石 敬 司	電気ポテンシャル法による分布き裂の簡易計測法に関する基礎的研究
	"	リバス・カストロ・ロベルト	AN EXPERIMENTAL INVESTIGATION ON PURE TONE GENERATION BY SELF-SUSTAINED OSCILLATION OF THE WATER FLOW
生産機械工学専攻 (5名)	"	赤沢 宗 彦	パターン投影による物体の位置と姿勢の測定
	"	中本 徹	安定化要素制御による固定絞り静圧スラスト軸受の特性改善
	"	細野 清 仁	歯当りを考慮したねじ歯車のかみあい解析に関する研究
	"	宮野 秀 昭	空気圧管路系の動特性
	"	村田 伸 一	アルミニウム合金の熱間押し型設計におけるメタルフロー調整に関する研究
化学工学専攻 (5名)	"	磯部 勉	ポリアクリルアミド加水分解ゲルの膨潤および金属イオン吸着特性
	"	川本 正 治	異常時処置支援システムの設計に関する研究
	"	柴田 良 弘	管および環状流路内の乱流構造
	"	西野 角 治	ゲルクロマトグラフィーの分離性能の支配因子 - 溶離液の電解質濃度とローディング液量 -
電子工学専攻 (12名)	"	番場 啓 泰	電気浸透的脱水過程における粘土層内の液状水移動
	"	岡島 公 樹	多源蒸着法によるEL薄膜発光素子の製作
	"	金井 伸 弘	Co-Crスパッタ膜の組成比と膜特性
"	川端 宏	Ge(100)-2×1面上のSiの初期成長過程	

電子工 学専攻	〃	北野 哲	FORTRANと結合可能なPROLOG処理系の作成
	昭和61年度	篠原 俊一郎	垂直磁気記録媒体下地層に関する研究
	〃	田代 憲 壘	強誘電性液晶セルにおける分子配向制御と電気-光学効果
	〃	田添 忠 徳	漢字についての質問応答システムの作成
	〃	津田 誠	強誘電性液晶セルの分子配向における電界誘起変形
	〃	富樫 昇	大地上の垂直アンテナに関する研究
	〃	中山 典 一	電子分光法によるGaSe-InSe界面の研究
	〃	淵脇 栄 治	強誘電性液晶セルの過渡応答とマトリックス駆動
	〃	山岸 明 洋	同期放送用八木アンテナの反射器特性に関する研究

## 人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	63. 3. 22	神 名 智 子		事務補佐員(人文学部・理学部)	富山大学長
臨時的任用	63. 3. 26	名 村 小百合		教諭(教育学部附属養護学校)	〃
	〃	田 中 奈緒美		教諭(教育学部附属養護学校)	〃
退 職	63. 3. 31	土 井 盛 治	教育学部事務長	国家公務員法第81条の2第1項の規定により昭和63年3月31日限り定年退職	文 部 大 臣
	〃	高 崎 公 文	人文学部・理学部事務長補佐	国家公務員法第81条の2第1項の規定により昭和63年3月31日限り定年退職	〃
	〃	六 土 幸 男	文部技官(工学部管轄工)	国家公務員法第81条の2第1項の規定により昭和63年3月31日限り定年退職	富山大学長
辞 職	〃	山 村 敬	教授(人文学部)	辞職を承認する	文 部 大 臣
	〃	中 村 宗 彦	教授(教育学部)	辞職を承認する	〃
	〃	南 龍 久	教授(経済学部)	辞職を承認する	〃
	〃	松 嶋 道 夫	教授(経済学部)	辞職を承認する	〃
	〃	関 口 健	助教授(理学部)	辞職を承認する	富山大学長
	〃	林 有 一	助教授(理学部)	辞職を承認する	〃
	〃	吉 田 喜 孝	助手(理学部)	辞職を承認する	〃
	〃	松 原 勇	助手(理学部)	辞職を承認する	〃
	〃	神 保 和 子	教諭(教育学部附属小学校)	辞職を承認する	〃
	〃	国 永 正 紀	教諭(教育学部附属小学校)	辞職を承認する	〃
	〃	小 西 信 英	教諭(教育学部附属小学校)	辞職を承認する	〃
	〃	糸 谷 邦 雄	教諭(教育学部附属中学校)	辞職を承認する	〃
	〃	尾 島 隆 保	教諭(教育学部附属中学校)	辞職を承認する	〃

辞 職	63. 3. 31	高 井 真 琴	教諭(教育学部附属中学校)	辞職を承認する	富山大学長
	"	松 井 茂 昭	教頭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	文 部 大 臣
	"	大 場 繁 實	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	富山大学長
	"	百 塚 睦 子	教諭(教育学部附属幼稚園)	辞職を承認する	"
	"	石 倉 充 紀	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
	"	西 村 清	事務局長	辞職を承認する	文 部 大 臣
	"	高 木 行 則	附属図書館事務長	辞職を承認する	"
併 任	"	増 田 信 彦	教授(経済学部)	評議員(63.3.31~64.7.31)	"
採 用	63. 4. 1	永 井 龍 男		講師(人文学部)	富山大学長
	"	重 見 一 行		教授(教育学部)	文 部 大 臣
	"	廣 瀬 信		講師(教育学部)	富山大学長
	"	山 口 孝 道		助教授(経済学部)	"
	"	唐 津 博		助教授(経済学部)	"
	"	河 野 三 郎		講師(経済学部)	"
	"	西 村 秀 二		講師(経済学部)	"
	"	池 田 公 司		助手(経済学部)	"
	"	田 中 寛 子		助手(経済学部)	"
	"	藤 田 安 啓		講師(理学部)	"
	"	田 村 典 明		助手(理学部)	"
	"	菊 池 万 里		助手(理学部)	"
	"	山 田 昌 樹		助手(工学部)	"
	"	松 田 健 二		文部技官(工学部)	"
	"	中 純 夫		講師(教養部)	"
	"	本 田 敏 也		教諭(教育学部附属小学校)	"
	"	荒 治 和 幸		教諭(教育学部附属小学校)	"
	"	池 田 繁 子		教諭(教育学部附属小学校)	"
	"	滝 脇 一 夫		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	竹 内 元 人		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	矢 野 勝 也		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	安 居 登		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	石 倉 充 紀		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	横 山 洋 子		教諭(教育学部附属幼稚園)	"
	"	梶 谷 理 香		文部事務官(経理部経理課)	"
	"	丸 本 理 恵 子		文部事務官(教育学部)	"
	"	齊 藤 智 明		文部事務官(教育学部)	"
	"	山 本 隆 裕		文部事務官(教育学部)	"

採用	63. 4. 1	関 衣美子		文部事務官(教養部)	富山大学長
	"	生 田 孝 行		文部事務官(附属図書館)	"
	"	藏 堀 左和子		文部事務官(附属図書館)	"
	"	館 野 洋 子		臨時用務員(教育学部作業員)	"
	"	奥 川 幸 子		事務補佐員(工学部)	"
	"	河 尻 美 雪		事務補佐員(工学部)	"
	"	杉 本 昭 二		臨時用務員(工学部作業員)	"
	"	金 田 千 果		教務補佐員(教養部)	"
	"	野 村 直 美		事務補佐員(附属図書館)	"
	"	河 崎 多紀子		事務補佐員(附属図書館)	"
	"	寺 岡 千 栄		事務補佐員(附属図書館)	"
	"	松 野 美奈子		事務補佐員(工学部)	"
臨時的任用	"	吉 崎 直 美		教諭(教育学部附属養護学校)	"
昇 任	"	中 本 昌 年	助教授(人文学部)	教授(人文学部)	文 部 大 臣
	"	水 内 俊 雄	助手(九州大学文学部)	講師(人文学部)	富山大学長
	"	實 清 隆	助教授(教育学部)	教授(教育学部)	文 部 大 臣
	"	吉 田 範 夫	助教授(岩手大学工学部)	教授(理学部)	"
	"	渡 邊 義 之	助教授(理学部)	教授(理学部)	"
	"	井 上 弘	助教授(理学部)	教授(理学部)	"
	"	菅 谷 孝	助手(理学部)	助教授(理学部)	富山大学長
	"	濱 本 伸 治	助手(理学部)	助教授(理学部)	"
	"	野 口 宗 憲	助手(理学部)	講師(理学部)	"
	"	嶋 尾 一 郎	助教授(工学部)	教授(工学部)	文 部 大 臣
	"	島 崎 長一郎	助教授(工学部)	教授(工学部)	"
	"	石 黒 隆 義	助教授(工学部)	教授(工学部)	"
	"	新 井 甲 一	助教授(工学部)	教授(工学部)	"
	"	小 泉 邦 雄	助教授(工学部)	教授(工学部)	"
	"	塩 澤 和 章	助教授(工学部)	教授(工学部)	"
	"	黒 田 重 靖	助手(工学部)	助教授(工学部)	富山大学長
	"	佐 貫 須美子	助手(工学部)	講師(工学部)	"
	"	奥 井 健 一	助手(工学部)	講師(工学部)	"
	"	氣賀澤 保 規	助教授(教養部)	教授(教養部)	文 部 大 臣
	"	神 徳 昭 甫	助教授(教養部)	教授(教養部)	"
	"	豊 泉 周 治	講師(教養部)	助教授(教養部)	富山大学長
	"	館 森 照 明	教諭(教育学部附属養護学校)	教頭(教育学部附属養護学校)	文 部 大 臣
	"	小 松 東 男	経理部主計課長	弓削商船高等専門学校事務部長	"

昇 任	63. 4. 1	永 森 俊 夫	人文学部・理学部事務長補佐	人文学部・理学部事務長	文 部 大 臣
	"	岡 山 一 雄	庶務部庶務課庶務係長	学生課課長補佐	"
	"	長 澤 義 男	庶務部人事課職員係長	人文学部・理学部事務長補佐	"
	"	奥 村 喜代志	学生課学生係長	人文学部・理学部事務長補佐	"
	"	東 仙 博	経理部主計課総務係監査主任	高岡短期大学会計課用度係長	高 岡 短 期 大 学 長
	"	安 西 修 三	工学部学務係学生主任	富山医科薬科大学教務部学生課入 学試験係長	富 山 医 科 薬 科 大 学 長
	"	堀 口 勲	教養部庶務係庶務主任	富山工業高等専門学校庶務課人事 係長	富 山 工 業 高 等 專 門 学 校 長
	"	山 本 悦 子	文部事務官(庶務部庶務課)	厚生課保健係保健主任	富山大学長
	"	涌 井 三枝子	文部事務官(教育学部)	教育学部庶務係庶務主任	"
	"	堀 和 子	文部事務官(教育学部)	経済学部会計係会計主任	"
	"	田 嶋 ス ミ	文部事務官(経理部主計課)	工学部経理係経理主任	"
転 任	"	神 前 進 一	助教授(人文学部)	助教授(大阪外国語大学外国語学 部)	大 阪 外 国 語 大 学 長
	"	武 田 紀代恵	助教授(経済学部)	助教授(筑波大学社会科学系)	筑波大学長
	"	松 井 隆 幸	助手(九州大学経済学部)	助手(経済学部)	富山大学長
	"	中 村 良 郎	教授(理学部)	教授(埼玉大学教育学部)	文 部 大 臣
	"	西 村 龍 夫	助教授(広島大学工学部)	助教授(工学部)	富山大学長
	"	西 村 芳 康	助教授(教養部)	助教授(電気通信大学電気通信学部)	電 気 通 信 大 学 長
	"	桶 喜 一	高岡短期大学会計課司計係長	経理部主計課管財係長	富山大学長
	"	廣 田 浩	富山医科薬科大学教務部学生課教 務第一係長	入学主幹付入学試験係長	"
	"	能 登 功	富山工業高等専門学校庶務課人事 係長	教育学部庶務係長	"
	"	山 田 勇 一	文部事務官(国立立山少年自然の 家庶務課会計係)	文部事務官(経理部経理課)	"
	"	北 角 政 信	文部事務官(経理部経理課)	文部事務官(高岡短期大学会計課)	高 岡 短 期 大 学 長
	"	森 田 智	文部事務官(経済学部)	文部事務官(高岡短期大学学生課)	"
	"	真 田 敏 江	文部事務官(工学部)	文部事務官(高岡短期大学会計課)	"
	"	武 田 正 夫	文部事務官(附属図書館)	文部事務官(国立立山少年自然の 家庶務課会計係)	国立立山少年 自然の家所長
	配 置 換	"	渡 邊 洋	教授(岩手大学人文社会科学部)	教授(人文学部)
"		岸 井 勇 雄	文部省初等中等教育局幼稚園課教 科調査官	教授(教育学部)	"
"		池 田 榮 雄	助手(経済学部)	助手(理学部)	富山大学長
"		高 井 正 三	文部技官(経理部主計課)	助手(工学部)	"
"		泉 寛 清	富山医科薬科大学事務局長	事務局長	文 部 大 臣
"		樋 口 昭 夫	庶務部庶務課長	信州大学庶務部庶務課長	"
"		米 岡 嶺 夫	弘前大学庶務部人事課長	庶務部庶務課長	"
"		小 田 野 弘 和	兵庫教育大学総務部会計課長	経理部主計課長	"
"		石 野 俱 行	人文学部・理学部事務長	教育学部事務長	"
"		森 慶 二	学生課課長補佐	附属図書館事務長	"
"		清 水 寛	工学部庶務係長	庶務部庶務課庶務係長	富山大学長

配置換	63. 4. 1	近岡忠夫	人文学部・理学部学務係長	庶務部庶務課文書係長	富山大学長
	"	雁田彰	教育学部庶務係長	庶務部人事課任用係長	"
	"	村中一男	施設課企画係長	庶務部人事課職員係長	"
	"	加賀見実	工学部經理係長	經理部經理課出納係長	"
	"	田中祥男	經理部經理課出納係長	施設課企画係長	"
	"	高森諤	教育学部学務係長	学生課学生係長	"
	"	大場克晃	厚生課奨学係長	厚生課厚生寮務係長	"
	"	野尻津喜夫	庶務部庶務課文書係長	厚生課奨学係長	"
	"	瀬川慶之	教養部教務係長	厚生課保健係長	"
	"	三井進	経済学部教務係長	人文学部・理学部学務係長	"
	"	角井与志雄	厚生課厚生寮務係長	教育学部学務係長	"
	"	黒田芳雄	厚生課保健係長	経済学部教務係長	"
	"	前田邦樹	庶務部人事課任用係長	工学部庶務係長	"
	"	奥田眞一	教養部会計係長	工学部經理係長	"
	"	松下義春	經理部主計課管財係長	教養部会計係長	"
	"	奥村行夫	入学主幹付入学試験係長	教養部教務係長	"
	"	友坂義一	經理部主計課司計係予算主任	經理部主計課総務係監査主任	"
	"	高邑英市	教育学部会計係会計主任	經理部主計課司計係予算主任	"
	"	大西光男	教養部学生係学生主任	学生課総務係総務主任	"
	"	矢後和子	庶務部人事課職員係職員主任	人文学部・理学部庶務係人事主任	"
	"	中島克敏	庶務部庶務課学事調査係研究協力主任	人文学部・理学部用度係用度主任	"
	"	山田知訓	人文学部・理学部学務係教務主任	人文学部・理学部学務係学生主任	"
	"	柴田利治	教育学部学務係厚生主任	人文学部・理学部学務係教務主任	"
	"	武田知己郎	人文学部・理学部用度係用度主任	教育学部会計係会計主任	"
	"	尾山吉昭	教養部教務係教務主任	教育学部学務係厚生主任	"
	"	向雅己	人文学部・理学部庶務係人事主任	教養部庶務係庶務主任	"
	"	渡辺登美枝	人文学部・理学部学務係学生主任	教養部学務係教務主任	"
	"	前馬柴津	文部事務官(經理部經理課)	文部事務官(庶務部庶務課)	"
	"	柴田淳	文部事務官(教育学部)	文部事務官(庶務部庶務課)	"
	"	岩永晴雄	文部事務官(經理部經理課)	文部事務官(庶務部庶務課)	"
	"	石坂淳子	文部事務官(工学部)	文部事務官(庶務部人事課)	"
	"	土田敏雄	文部技官(經理部經理課)	文部技官(經理部主計課)	"
	"	長谷川美香	文部事務官(教養部)	文部事務官(經理部主計課)	"
"	平林富子	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(經理部經理課)	"	
"	下田誠一	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(經理部經理課)	"	
"	笹岡博史	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(学生課)	"	

配 置 換	63. 4. 1	高 尾 邦 彦	文部事務官(庶務部庶務課)	文部事務官(人文学部・理学部)	富山大学長	
	"	清 水 麗 子	文部事務官(経済学部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"	
	"	新 井 浩	文部事務官(教養部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"	
	"	織 田 世 起	文部事務官(経済学部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"	
	"	島 田 勝 弘	文部事務官(工学部)	文部事務官(教育学部)	"	
	"	能 波 輝 之	文部事務官(学生課)	文部事務官(教育学部)	"	
	"	山 本 郁 子	文部技官(厚生課栄養士)	文部技官(教育学部栄養士)	"	
	"	小 路 隆	文部事務官(工学部)	文部事務官(経済学部)	"	
	"	高 木 晃	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(経済学部)	"	
	"	田 中 茂	文部事務官(工学部)	文部事務官(経済学部)	"	
	"	坂 東 康 子	文部事務官(教育学部)	文部事務官(工学部)	"	
	"	宮 原 進	文部事務官(経済学部)	文部事務官(工学部)	"	
	"	中三川 敏之	文部事務官(教育学部)	文部事務官(工学部)	"	
	"	田 村 修 一	文部事務官(附属図書館)	文部事務官(工学部)	"	
	"	川 上 重 信	文部事務官(学生課)	文部事務官(工学部)	"	
	"	加 藤 尚 弘	文部事務官(教育学部)	文部事務官(工学部)	"	
	"	堀 登	文部事務官(教育学部)	文部事務官(教養部)	"	
	"	佐 藤 修	文部事務官(工学部)	文部事務官(教養部)	"	
	併 任	"	林 良 重	教授(教育学部)	教育学部附属小学校長(63. 4. 1~64. 3. 31)	文 部 大 臣
		"	中 川 眸	教授(教育学部)	教育学部附属中学校長(63. 4. 1~56. 3. 31)	"
"		中 川 孝	教授(教育学部)	教育学部附属養護学校長(63. 4. 1~65. 3. 31)	"	
"		中 谷 唯 一	教授(教育学部)	教育学部附属幼稚園長(63. 4. 1~65. 3. 31)	"	
"		佐々木 光三	教授(教育学部)	教育学部附属教育実践研究指導センター長(63.4.1~65.3.31)	"	
"		篠 原 巖	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(63. 4. 1~64. 3. 31)	富山大学長	
"		榊 原 英 夫	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(63. 4. 1~64. 3. 13)	"	
"		芳 賀 健 一	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(63. 4. 1~64. 3. 31)	"	
"		佐 藤 良 一	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(63. 4. 1~64. 3. 31)	"	
"		小 倉 利 丸	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(63. 4. 1~64. 3. 31)	"	
"		大 谷 重 彦	教授(教養部)	評議員の併任を解除する	文 部 大 臣	
"		大 谷 重 彦	教授(教養部)	教養部長・評議員(63. 4. 1~65. 3. 31)	"	
"		有 沢 一 男	教授(教養部)	評議員(63. 4. 1~64. 4. 24)	"	
"		稲 垣 保 彦	教授(教養部)	保健管理センター所長(63. 4. 1~65. 3. 31)	"	
"		土 田 敏 雄	文部技官(経理部経理課)	経理部主計課の併任を解除する	富山大学長	
"		山 本 郁 子	文部技官(厚生課栄養士)	保健管理センター栄養士の併任を解除する	"	
"		館 森 照 明	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校高等部主事の併任を解除する	"	
"		佐 藤 日出信	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校中学部主事の併任を解除する	"	

併 任	63. 4. 1	布 尾 英 二	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校小学部主事の併任を 除する	富山大学長
	"	佐 藤 日出信	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校高等部主事	"
	"	布 尾 英 二	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校中学部主事	"
	"	堀 田 清 子	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校小学部主事	"
職務命令	"	高 井 正 三	文部技官(経理部主計課)	経理部主計課総務係情報処理センター業務主任を免ずる	"
	"	高 井 正 三	助手(工学部)	情報処理センター勤務を命ずる	"
	"	田 中 茂	文部事務官(工学部)	工学部用度係用度主任を免ずる	"
	"	田 中 茂	文部事務官(経済学部)	経済学部学生係学生主任を命ずる	"
	"	宮 原 進	文部事務官(経済学部)	経済学部庶務係人事主任を免ずる	"
	"	宮 原 進	文部事務官(工学部)	工学部庶務係人事主任を命ずる	"
公の名称の附加	"	館 森 照 明	教頭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校副校長を命ずる	"
退 職	"	藤 井 敏 孝	教授(教育学部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	文 部 大 臣
	"	棚 田 良 平	教授(経済学部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	"
	"	田 中 専一郎	教授(理学部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	"
	"	久 保 和 美	教授(理学部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	"
	"	広 岡 脩 二	教授(工学部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	"
	"	位 崎 敏 男	教授(工学部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	"
	"	吉 田 順 作	教授(工学部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	"
	"	杉 本 新 平	教授(教養部)	昭和63年3月31日限り停年により退職した	"
	"	江 川 秀 子	事務補佐員(入学主幹付)	昭和63年3月31日限り退職した	富山大学長
	"	土 井 美都子	臨時用務員(教育学部作業員)	昭和63年3月31日限り退職した	"
	"	丸 本 理恵子	事務補佐員(工学部)	昭和63年3月31日限り退職した	"
	"	関 衣美子	事務補佐員(附属図書館)	昭和63年3月31日限り退職した	"
	"	二 口 真 也	事務補佐員(附属図書館)	昭和63年3月31日限り退職した	"
	"	寺 島 和 裕	事務補佐員(附属図書館)	昭和63年3月31日限り退職した	"
	"	河 崎 多紀子	事務補佐員(経済学部)	昭和63年3月31日限り退職した	"

(任用係)

—職員会館の宿泊の御案内—

- ◎利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!
- ◎申し込み…利用日の2日前までに!!
- ◎門限時刻…午前10時………御協力を………!!



学 内 諸 報

新任局長紹介



事務局長に泉 寛清氏  
昭和63年4月1日付けで事務局  
長に前富山医科薬科大学事務局  
長 泉 寛清氏が就任された。

略 歴

石川県出身 昭和4年11月20日生  
昭和21年3月 金沢中学校卒  
21年6月 第四高等学校  
24年6月 金沢大学  
35年6月 " 結核研・会計係長  
36年6月 " 施設課企画係長

昭和40年4月 管理局教育施設部計画課  
40年10月 " 計画第二係長  
41年9月 " 計画第一係長  
44年4月 " 庶務係長  
48年4月 高知大学会計課長  
50年4月 社会教育局婦人教育課専門員  
52年4月 管理局企画調整課課長補佐  
54年4月 富山医科薬科大学業務部長  
55年4月 " 総務部長  
58年6月 長崎大学経理部長  
61年4月 富山医科薬科大学事務局長  
63年4月 富山大学事務局長

経営短期大学部閉学式及び同閉学パーティーの開催

経営短期大学部閉学式及び同閉学パーティーが去る  
3月10日(木)富山第一ホテルで招待者及び本学職員約  
120人が出席して行われました。

閉学式では学長が「29年の輝かしい歴史と伝統の閉  
学に愛惜の念を禁じ得ない。」と式辞を述べられ、望  
月昌吾国立短期大学協会副会長、横山 保高岡短期大  
学学長、中沖 豊富山県知事、金岡幸二経営短期大学  
部後援会会長の順に挨拶があり、続いて永年短期大学  
部に非常勤講師を勤めた教官6人のほか後援会関係者  
に感謝状の贈呈がありました。

閉学式終了後引き続き閉学パーティーが催されまし  
た。閉学パーティーでは経営短期大学部主事の挨拶が  
あり、柳田友道前富山大学長、金森賢二経済学部越巖

会会長の順に祝辞が述べられ、前経営短期大学部主事  
の乾杯で祝宴が始まり懐旧談に花が咲き、盛会のうち  
に終了しました。



学位取得者

○取得者 経済学部 助教授 榊原英夫  
学位の種類 商学博士(早稲田大学)  
取得年月日 昭和63年2月16日  
学位論文名 規範的財務会計理論の研究

○取得者 理学部 助教授 渡辺義之  
学位の種類 理学博士(筑波大学)  
取得年月日 昭和63年1月31日

学位論文名 ユニタリ対称ケーラー多様体上の微分  
幾何学

○取得者 工学部 講師 大住 剛  
学位の種類 工学博士(京都大学)  
取得年月日 昭和63年3月23日  
学位論文名 静圧スラスト軸受の特性改善に関する  
研究

○取得者 工学部 助手 作井正昭  
 学位の種類 工学博士（東京都立大学）  
 取得年月日 昭和63年3月10日

学位論文名 整流動作関数の導入による静止電力順  
 変換回路の高調波解析法とその応用に  
 関する研究

叙 位

本学名誉教授佐々亮氏は、昭和63年2月6日逝去(享年82才)されましたが、同氏の生前の功績に対し、同

日付けで正四位に叙されました。

退職（予定）者を囲む懇談会

昭和62年度に定年（停年）又は勸奨により退職される方々を囲む懇談会が、去る3月18日（金）午前11時から事務局大会議室において開催されました。

懇談会に先立ち、記念品の贈呈、学長挨拶、退職（予定）者代表の謝辞、記念撮影が行われたあと懇談会に入りました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気のうちに行われ、学長をはじめ各部局長等から、永年の労がねぎらわれました。

なお、退職者は次のとおりです。

教 育 学 部	文 部 技 官	藤 井 敏 孝
〃	文 部 事 務 官	土 井 盛 治
経 済 学 部	文 部 教 官	棚 田 良 平
理 学 部	〃	田 中 専 一 郎
〃	〃	久 保 和 美
工 学 部	〃	位 崎 敏 男
〃	〃	広 岡 脩 二
〃	〃	吉 田 順 作
〃	文 部 技 官	六 土 幸 男
教 養 部	文 部 教 官	杉 本 新 平
附 属 図 書 館	文 部 事 務 官	高 木 行 則
		(庶務係)

事 務 局 文 部 事 務 官 西 村 清  
 人文学部・理学部 〃 高 崎 公 文



## 海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	教授	富川 盛道	連合王国, スーダン, ケニア, タンザニア, カメルーン, フランス	アフリカにおける都市化の総合比較調査	62. 12. 1 } 63. 3. 18
	工学部	助教授	五嶋 孝仁	アメリカ合衆国	異種弾性体の接触熱応力に関する研究と調査	63. 3. 27 } 64. 1. 26
海外研修旅行	教養部	講師	小松 謙	中華人民共和国	中国演劇に関する調査研究及び学術交流	63. 3. 3 } 63. 3. 21
	理学部	教授	堀越 叡	アメリカ合衆国	西太平洋におけるアルビン号潜水調査についての日米共同セミナー出席のため	63. 3. 4 } 63. 3. 13
	人文学部	助教授	神前 進一	シンガポール マレーシア	研究・教育用資料の収集	63. 3. 8 } 63. 3. 15
	理学部	助教授	庄子 仁	アメリカ合衆国 西ドイツ	アメリカ合衆国ニューヨーク州立大学バッファロー校氷コア研究所との協同研究打合せ及び西ドイツ, ベルリンで開催されるゲーレム・ワークショップ出席のため	63. 3. 9 } 63. 3. 26
	工学部	助教授	坂井 純一	アメリカ合衆国	太陽活動とそれに伴う惑星空間への影響に関する国際研究集会に出席し, 研究発表を行うため	63. 3. 14 } 63. 3. 22
	教養部	助教授	竹内 章	台湾	電子スピン共鳴法および熱螢光法による年代測定に関する台湾大学地質学系劉平妹氏との共同研究	63. 3. 15 } 63. 3. 31

## 寄 稿

## 南インド洋・南極海での国際海洋底掘削計画に参加して

理学部・地球科学科 酒井 英男

世界の海を巡り、深海底を掘削しようという国際共同計画がある。アメリカ・西欧諸国・日本・オーストラリア・カナダ等が参加した、この計画は OCEAN DRILLING PROGRAM (ODP) と名付けられ1985年からスタートしている。世界の海の深海底にはどんな物質があり、いつごろどのくらいの早さで生成・堆

積されたかの情報は、重要である。ODP以前には、主としてアメリカ独自による掘削研究が1968年から行われ、地球科学に大きな貢献をしてきた。それを拡大継承したものが ODP で、本部は TEXAS A & M UNIVERSITYにある。

筆者が参加した、Leg119 と名付けられた航海は、南

インド洋にある地球上最大の海台—ケルゲルン海台—と南極海のプリッツ湾での掘削を目的として行われた。ケルゲルン海台は、 Gondwana大陸分裂時における位置・役割が謎とされてきた地域である。日本から一人という不安を抱いて、出港地であるインド洋の楽園、モーリシャスに着いたのは、周囲の海域で日本人犠牲者が多数出た航空機事故から間もない頃であった。

JOIDES RESOLUTION号と名付けられたODPの専用船（キャプテンクックが第3次航海に用いたりゾリューション号にちなんでいる）は、ヨーロッパ・北米・オーストラリアなどからの研究者27人、実験試料の収集や実験をサポートしてくれる技術者、船の運行に携わる人の総数約100人を乗せ、昨年12月18日モーリシャスポートルイス港を出港した。

掘削地域は、有名な南緯50—60度の暴風圏を含んでおり、更に、アメリカ棚氷（南極の巨大なランバート氷河の開口にあたる）から流出する氷山の危険も考慮しなければならなかった。船の装備が拡充されたこと、および氷山を追いやる能力を備えた監視船の同行により、掘削調査が可能となったのである。とはいっても、南緯50—60度の暴風圏ではテーブルの食器が落ち、引き出しが飛び出す等の大きな揺れも何度か経験し、近寄ってくる氷山の為に掘削を中断せざるを得ない事態にも遭遇した。

船上は優れた実験装置も揃い、さながら研究所であった。我々は、ホテル並の待遇を受け、仕事に専念できた。筆者が担当した古地磁気は、測定事項が多く、担当時間である midnight (0 am to 12 am) はサンプリング・測定・データ解析・レポート作製に追われた。船上生活は初めての筆者が、大して船酔もせず過ごせたのは忙しかった為かもしれない。

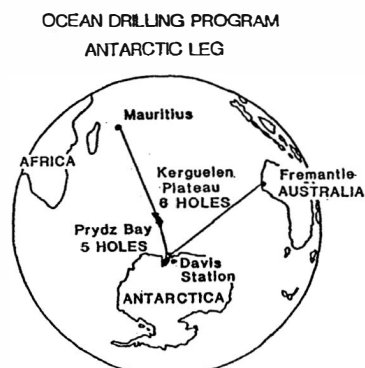
クリスマス・新年等にはパーティが催され、プリッツ湾では、南極オーストラリア基地の越冬隊がヘリコ

プターで遊びにきて、甲板で盛大なパーティが行われた。毎日、上映される映画、トランプ・ダーツ・たこあげ・卓球（運良く決勝まで残った）大会等のレクリエーションも盛んであり、船員さんとも仲良く成れた。free time は仕事からスパット離れ、徹底して楽しむという雰囲気は、最初は馴染めなかったが良い経験になった。

掘削により、2000mの深海底からも、約2時間毎に1本9mのボーリング試料が船上に上がってくる。手にしている堆積物が、数千mの深海底から更に数百mの深さで掘られたものとふと考えると、不思議な感慨にとらわれた。航海の後半では南極大陸が遠くに見渡せる地点で掘削が行われた。南極海域での幻想的な氷山、流氷に乗ったペンギンは、印象的だった。オーロラも2回、出た（が、寝ており見過ごした）。

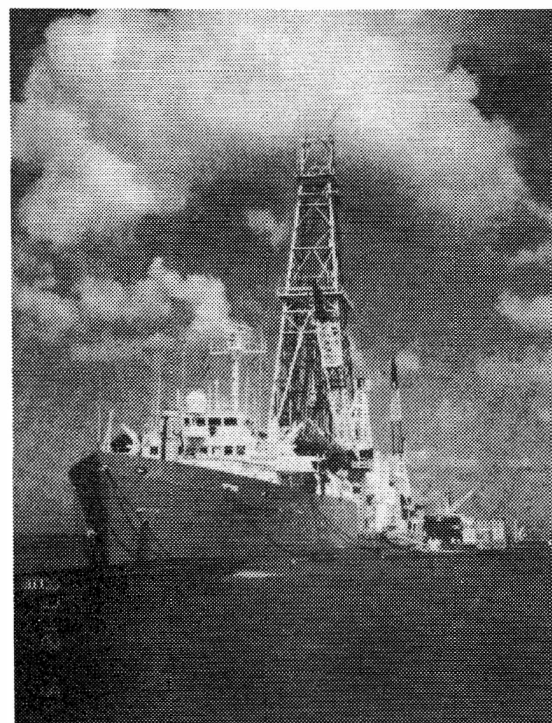
2月21日、朝5時頃に甲板に出ると、西オーストラリアフリマントルの灯がうっすらと水平線に見える。2カ月ぶりに見る陸にはさすがに感動を覚えた。今回の航海はODP本部からも大物が乗り込み、ODPの目玉となる航海だと聞いた。航海の成果の総括はNature, Geotimes で報告される予定である。筆者にとっても、研究面だけでなく、多くの他国の人と知り合え、学んだことは多かった。

参加者の中で一番多い、1700個余りの試料が先日、大学に届いた。この測定がこれから待っている。結果を持って、9月にはテキサスでみんなと再会する。



DEC. 1987- FEB. 1988

ハワイ大 Barbara Keating のデザインによる



職員消息

《新任者住所》

事務局・学生部

文部事務官 泉 寛清  
(事務局長)

文部事務官 米岡 嶺夫  
(庶務課長)

文部事務官 小田野 弘和  
(主計課長)

文部事務官 桶 喜一  
(管財係 長)

文部事務官 山田 勇一  
(管理係)

文部事務官 梶谷 理香  
(情報処理係)

文部事務官 廣田 浩  
(入学試験係長)

人文学部

教 授 渡邊 洋  
(比較文学)

講 師 永井 龍男  
(哲学史)

講 師 水内 俊雄  
(人文地理学)

事務補佐員 神名 智子  
(数 学)

教育学部

教 授 重見 一行  
(国語学)

教 授 岸井 勇雄  
(幼児教育)

講 師 広瀬 信  
(教育史)

文部事務官 斉藤 智明  
(学務係)

文部事務官 山本 隆裕  
(理科教室)

文部事務官 丸本理恵子  
(会計係)

教 諭 石倉 充紀

附属小学校

教 諭 本田 敏也  
(理科)

経済学部

助 教 授 山口 孝道  
(基礎法)

教 諭 荒治 和幸  
(図工)

助 教 授 唐津 博  
(民事法)

教 諭 池田 繁子  
(家庭)

講 師 河野 三郎  
(応用経営)

附属中学校

教 諭 滝脇 一夫  
(数学)

講 師 西村 秀二  
(基礎法)

教 諭 竹内 元人  
(理科)

助 手 松井 隆幸  
(比較経済論)

教 諭 矢野 勝也  
(英語)

助 手 池田 公司  
(経営学)

附属幼稚園

教 諭 横山 洋子

助 手 田中 寛子  
(比較経済論)

附属養護学校

教 諭 安居 登

理学部

教 授 吉田 範夫  
(応用解析学及び  
電子計算機論)

臨時用務員 杉本 昭二  
(用度係)

講 師 藤田 安啓  
(数理統計学)

教 養 部

講 師 中 純夫  
(倫理学)

助 手 田村 典明  
(生理学)

文部事務官 関 衣美子  
(会計係)

助 手 菊池 万里  
(数理統計学)

教務補佐員 金田 千果  
(化 学)

工 学 部

助 教 授 西村 龍夫  
(輸送現象)

附 属 図 書 館

文部事務官 生田 孝行  
(受人係)

助 手 山田 昌樹  
(有機合成化学)

文部事務官 藏堀左和子  
(整理係)

文 部 技 官 松田 健二  
(金属加工学)

事務補佐員 野村 直美  
(閲覧係)

事務補佐員 松野美奈子  
(電気理論・電力工学)

事務補佐員 河崎多紀子  
(閲覧係)

事務補佐員 河尻 美雪  
(切削加工・情報処理)

事務補佐員 寺岡 千栄  
(参考係)

事務補佐員 奥川 幸子  
(輸送現象)

《住所変更》

人文学部

助 教 授 山 口 幸 祐

理 学 部

助 手 中 村 省 吾

教育学部

教 諭 宮 崎 新 悟

教 養 部

教 務 補 佐 員 林 敬 久

主 要 行 事

本 部

- 3月
- 2～4日 北陸地区国立5大学合同健康増進合宿セミナー（於：極楽坂スキー場やまふじ山荘）
- 5日 昭和63年度富山大学入学者選抜健康診断（再診断）
- 5～6日 第2次学力検査
- 10日 国立学校施設計画連絡協議会（於：文部省）
- 11日 第30回北陸五大学施設担当者協議会（於：福井医科大学）
- 昭和62年度入学試験管理委員会・入学者選抜方法研究委員会の合同委員会
- 第6回学寮補導委員会
- 15日 構内交通対策委員会
- 17日 第6回大学院委員会
- 第13回評議会
- 18日 退職予定者懇談会
- 合格者発表
- 20～24日 願書受付（第2次募集）
- 22日 部課長会議
- 第10回事務協議会
- 24日 会計係長会議
- 25日 卒業式（於：富山市公会堂）
- 30日 第2次募集合格者発表

人 文 学 部

- 3月2日 事務連絡会
- 8日 事務連絡会
- 10日 授業時間割担当者会議
- 15日 真率会送別会（於：学生会館）
- 16日 人事教授会
- 教授会
- 大学院人文科学研究科委員会
- 18日 事務連絡会
- 24日 センター構想検討委員会
- 25日 学部卒業証書授与式並びに卒業祝賀会（於：富山県民会館）

教 育 学 部

- 3月
- 1～3日 昭和62年度教員養成学部学生合宿研修（冬季）（於：山野スポーツセンター・県営ゴンドラスキー場）
- 9日 人事教授会
- 11日 教務委員会
- 職業補導委員会
- 12日 附属養護学校 卒業式
- 13～19日 スキーII実習（於：志賀高原発哺スキー場）
- 14日 附属幼稚園 卒業式



- |                           |                                     |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 15日 附属小学校 卒業式             | 28日 入学者選抜調査書審査<br>(物理学科定員一部留保第2次募集) |
| 16日 教授会<br>教務補導合同委員会      | 立山研究室運営委員会                          |
| 17日 附属幼稚園 第3学期修業式         | 30日 教授会                             |
| 18日 附属中学校 卒業式             | 大学院理学研究科委員会                         |
| 19日 附属中学校, 附属養護学校 第3学期修業式 | 人事教授会                               |
| 22日 附属小学校 第3学期修業式         | 物理学科定員一部留保第2次募集合格者発表                |

**経済学部**

- 3月2日 学部図書委員会  
5日 昭和63年度私費外国人留学生入学試験選考委員会  
11日 学部施設整備委員会  
学部入学方法検討委員会  
15日 学部補導委員会  
各種委員選考委員会  
学部入学方法検討委員会  
16日 学部教務委員会  
人事教授会  
教授会  
17日 改組経過報告書作成委員会  
18日 経済学部と教養部教務委員会委員の合同会議  
23日 編入学(学士入学)志願者入学試験選考委員会  
28日 財務委員会(持ち回り)

**理学部**

- 3月2日 事務連絡会  
8日 事務連絡会  
15日 真率会送別会(於:学生会館)  
16日 教授会  
大学院理学研究科委員会  
人事教授会  
18日 事務連絡会  
20~24日 物理学科定員一部留保第2次募集願書受付  
25日 学部卒業証書並びに理学研究科修士学位記授与式  
(於:理学部10番教室)

**工学部**

- 3月2日 入学試験説明会  
選考委員会  
学科主任会議  
学部改革検討委員会  
3日 事故対策委員会  
7日 事故対策委員会  
8日 選考委員会  
学科主任会議  
学科主任・学部改革検討委員会合同会議  
9日 専任教授会  
入学試験検討委員会  
同専門部会  
11日 係長連絡会  
16日 教授会  
工学研究科委員会  
24日 消火訓練  
26日 学科主任会議・学部改革検討委員会合同会議  
28日 事故対策委員会

**教養部**

- 3月2日 補導委員会  
9日 教務委員会  
人事教授会  
教授会  
13~19日 スキー実習(於:志賀高原スキー場)  
23日 視聴覚教育委員会

**附属図書館**

3月4日 第6回商議会

17日 ワーキンググループと富士通S Eとの打合せ会

23日 係長事務打合せ会

**地域共同研究センター**

3月11日 開所式打合せ会

**保健管理センター**

3月

2～4日 昭和62年度北陸地区国立5大学合同健康増進合宿セミナー

(於：極楽坂スキー場 やまふじ山荘)

5日 昭和63年度富山大学入学者選抜健康診断(再診断)

**経営短期大学部**

3月8日 教授会

10日 富山大学経営短期大学部閉学式

(於：富山第一ホテル)

富山大学経営短期大学部閉学パーティー

(於：富山第一ホテル)

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

資料

昭和63年3月富山大学卒業（修了）者数

・学部

昭和63年3月25日付

学部	学科（課程）	卒業者数
人文学部	人文学科	83
	語学文学科	85
	計	168
教育学部	小学校教員養成課程	147
	中学校教員養成課程	38
	養護学校教員養成課程	20
	幼稚園教員養成課程	29
	計	234
経済学部	経済学科	116
	経営学科	97
	経営法学科	46
	計	259
理学部	数学科	22
	物理学科	39
	化学科	30
	生物学科	24
	地球科学科	25
	計	140
工学部	電気工学科	54
	工業化学科	51
	金属工学科	45
	機械工学科	45
	生産機械工学科	41
	化学工学科	40
	電子工学科	35
	計	311
合	計	1,112

・専攻科

昭和63年3月25日付

専攻科	専攻	修了者数
教育専攻科	教育専攻	1
経済学専攻科	経理経営専攻	4
	計	5

・大学院

昭和63年3月25日付

研究科	専攻	修了者数
理学研究科	数学専攻	3
	物理学専攻	7
	化学専攻	5
	生物学専攻	6
	地球科学専攻	4
	計	25
工学研究科	電気工学専攻	8
	工業化学専攻	9
	金属工学専攻	10
	機械工学専攻	2
	生産機械工学専攻	5
	化学工学専攻	5
	電子工学専攻	12
	計	51
合	計	76

・経営短期大学部

昭和63年3月25日付

学科	専攻	卒業者数
経営学科	経営管理専攻	42
	経営・法律専攻	16
	計	58

(教務係)

## 昭和62年度授業日程表

学部等	前 学 期		夏季休業	後 学 期		冬季休業	備 考
	授業(補講を含む)	期末試験		授業(補講を含む)	期末試験		
教養部	4/12~7/11, 9/1~9/14	9/16~9/29	7/15~8/31	10/15~12/23, 1/11~2/14	2/18~2/27	12/24~1/10	
	4/12~7/11, 9/1~9/14	9/21~9/29	7/12~8/31	10/15~12/23, 1/11~2/14	2/21~2/27	12/24~1/10	経済学部夜間主コース
人文学部	4/13~7/26,		7/27~8/31	10/13~12/14, 1/11~2/21		12/15~1/10	集中講義 9/19~9/30 12/19~2/23 2/20~2/24
教育学部	4/7~7/13	7/18~7/23	7/24~8/31	10/20~12/21, 1/9~2/11	2/16~2/22	12/22~1/8	教育実習 9/1~10/19
経済学部	4/11~7/16, 9/1~9/7	9/21~9/29	7/18~8/31	10/15~12/24, 1/7~2/10	2/15~2/23	12/26~1/6	(昼間主コース) (夜間主コース)
理学部	4/14~7/13, 9/1~9/14		7/14~8/31	10/14~12/22, 1/12~2/15		12/23~1/11	物理学基礎実験 7/14~7/20 化学実験 9/16~9/24 生物学実験 4/4~4/9 地球科学実験 10/6~10/13
工学部	4/13~7/12, 9/1~9/21		7/13~8/31	10/14~12/22, 1/9~2/18		12/23~1/8	

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

編集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電話 (24) 1755(代)